



1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

今回の改訂では、次の考え方を踏まえて、改善・充実が図られました。

- ・言葉と体験を重視しつつ、幼児期の教育とのつながりや小学校低学年における各教科等における学習との関係性、中学年以降の学習とのつながりを踏まえる。

目標の構成の改善

生活科で育成を目指す資質・能力（下線部）を三つの柱で整理しています。

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりなどに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。

学びに向かう力・人間性等の涵養

- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

内容の構成の改善

(1)～(9)の学習内容を「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」「身近な人々社会及び自然と関わる活動に関する内容」「自分自身の生活や成長に関する内容」の三つに整理しています。

現行学習指導要領

- (1)学校と生活
(2)家庭と生活
(3)地域と生活
-
- (4)公共物や公共施設の利用
(5)季節の変化と生活
(6)自然や物を使った遊び
(7)動植物の飼育・栽培
(8)生活や出来事の交流
-
- (9)自分の成長

学習対象・学習活動等

思考・認識等

能力・態度等

新学習指導要領

- (1)学校と生活
(2)家庭と生活
(3)地域と生活

学校、家庭及び地域の生活に関する内容

- (4)公共物や公共施設の利用
(5)季節の変化と生活
(6)自然や物を使った遊び
(7)動植物の飼育・栽培
(8)生活や出来事の伝え合い

身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容

- (9)自分の成長

自分自身の生活や成長に関する内容

学習対象・学習活動等

思考力・判断力・表現力の基礎

知識及び技能の基礎

学びに向かう力・人間性等

(1)～(9)の学習内容は、「学習対象・学習活動等」「思考力・判断力・表現力の基礎」「知識及び技能の基礎」「学びに向かう力・人間性等」の四つの要素で構成されています。

学習内容の改善・充実

主に、次のような改善充実が図られました。

○「思考力・判断力・表現力等」の育成の重視

- ・活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするために、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」などの多様な学習活動を重視する。
- ・動物の飼育や植物の栽培などの活動は2学年間にわたって取り扱い、引き続き重視する。
- ・他教科等との関連を積極的に図り、低学年の教育全体の充実と中学年以降の教育への円滑な移行を図る。
- ・入学当初において、合科的・関連的な指導の工夫として、スタートカリキュラムを行うようにする。

2 小学校生活科における授業づくりのポイント

Point 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をしましょう。

授業改善に当たっては、児童の思いや願いを実現する体験を伴う活動を充実させるとともに、表現する活動を工夫し、体験を伴う活動と表現する活動とが豊かに行きつ戻りつする相互作用を意識しましょう。

〈主体的な学びの視点〉

- ・学校、家庭、地域を学習の対象や場とし、対象に直接関わる活動を行うことで、興味や関心を喚起し、自発的な取り組みを促す。
- ・相手意識や目的意識をもって表現する活動を行って学習活動を振り返り、自分自身の成長に気付くようにする。

〈対話的な学びの視点〉

- ・他者と伝え合う活動により、一人一人の発見を他者と共有したり、新たな気付きやその関係を明らかにしやすくしたりする。

〈深い学びの視点〉

- ・「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かした学習活動を行い、気付きの質を高めるようにする (Point 2参照)。

身近な生活に関わる 見方・考え方

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする

Point 2 気付きの質を高めることを意識した授業づくりをしましょう。

生活科における主体的・対話的で深い学びを実現するためには、気付きの質を高めることが大切です。そのために必要な学習指導のポイントと指導例を紹介します。

○ 試行錯誤する活動を設定する

繰り返し自然事象と関わったり、試行錯誤して何度も挑戦することで、事象を注意深く見つめたり予想を確かめたりする学習方法を身に付けるようにする。

- (例) 試行錯誤の過程を児童が自ら振り返り、自覚できるようにするために、気付きを児童が自分で記録できるようにしたり、教師が写真や動画で撮影しておいて振り返る際に提示したりする。

○ 伝え合う場を工夫する

伝え合う活動において、一人一人の気付きを質的に高めていくために、一人一人の気付きを全員で共有し、みんなで高めていくようにする。

- (例) 体験したことや調べたことを伝え合う際は、教師も会話に参加し、相手意識や目的意識をもたせながら、共通点や相違点を見付け、更に調べたいことを明らかにして次の活動に向かうようにする。

○ 言葉で振り返り表現する機会を設ける

活動や体験したことを言葉や絵などによって振り返ることで、無自覚だった気付きが自分の中で明確になったり、互いの気付きを共有したり、関連付けたりすることができるようにする。

- (例) 活動を振り返る際は、児童が気付いたことを基に、見付ける、比べる、たとえば、試す、見通す、工夫するなど、多様な学習活動を工夫するようにする。

○ 児童の多様性を生かす

活動と共に変化する思いや願いに寄り添うことで、児童が示す多様性を生かし、学びをより豊かにする。

- (例) 学級全体の中に、多様性を尊重する風土を醸成し、互いが異なることを認め合える雰囲気づくりをする。また、児童に寄り添い、共感し、共に動き、小さな変化に目を止めるなど、教師自身が児童にとって豊かさを感じられる環境の一部となるよう努める。